

**第 2 期八戸市次世代育成支援行動計画 平成 28 年度実施状況
質問・意見に対する回答**

事業番号	42	事業・取組名	特別支援教育アシスト事業
質問	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援アシスタントは不足。ぜひ増やすべき。 ・資質の向上を。障がいの子どもの持つ保護者になるのは反対。 		
回答	<p>事業担当課 こども支援センター</p> <p>八戸市教育委員会では、特別支援教育アシスト事業として平成 19 年度から特別支援アシスタントを各学校に配置しています。事業開始時は 7 名でしたが、26 年度からは 76 名、昨年度からは 80 名のアシスタントを配置しており、希望するほとんどの学校に配置することができております。</p> <p>しかし、市内小・中学校においては、特別な支援を要する児童生徒が増加しているだけでなく、障がい特性が重複化、多様化していることから、学級担任が個々の児童生徒に対して十分な支援を行うのが難しいといった課題を抱えている学校があります。そのため、各校 1 人のアシスタント配置では、支援が十分であるとは言えず、複数のアシスタントを必要としている学校が増加しています。</p> <p>市教育委員会といたしましては、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導・支援をしていくために、特別支援アシスタントの増員及び質の向上が必要であることを十分に認識しております。</p> <p>特別支援アシスタントの応募資格は、「教育に関心のある方で、教育・保育・看護・介護等の資格・経験があるとなお可」としております。しかし、4 月採用に向けた応募者の数は年々減少しており、特に新規応募者数は平成 26 年度と比較し今年度は 70% 減少しております。継続して応募してくださっている方の採用がほとんどであるため、勤務環境等の改善を図りながら、今後も継続的に応募していただけるように努めて参りたいと考えております。</p> <p>次に、特別支援アシスタントに対しては、学校へ配置する前の研修の他、年 2 回の研修会を実施し、発達障害についての総論的な知識や一人一人に現れている障がいの具体的な見取り方や学校教職員との連携のあり方等について学ぶ機会を設けています。4 月採用者の 7 割程度は教員、保育士等の資格を所有している方ですが、特に資格のない方も多くおります。そこで、初めて採用になった特別支援アシスタントに対しては学校訪問を行い授業時の支援の様子を実際に見て指導助言を行うようにしています。また、研修会では、経験年数や年齢を考慮したグループ編成を行い、教職経験やアシスタントとしての実践、子育ての経験を踏まえた協議等を行い、互いに学び合う時間も確保し、不安解消にも努めているところであります。</p> <p>今後も、希望するすべての学校への配置とアシスタントの質の向上を目指して、引き続き特別支援教育アシスト事業の拡充に努めてまいります。</p>		

事業番号	事業・取組名
質問	<ul style="list-style-type: none"> ・先般話題の保育園での使用済みのおむつの件について ロッカーなどが用意されており、帰りに保護者手渡しになって「持ち帰り」となっている。ゴミ収集日まで保管が難しい、又、こどもの体調を知ってもらうため等らしい。各保育園で対応が違っていて少し論争になっている。八戸市内ではどのような対応になっているか。
回答	<p>事業担当課 こども未来課</p> <hr/> <p>次回、10月31日（火）の子ども・子育て会議において、回答いたします。</p>